

令和5年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月19日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①共通教科の基礎学力の定着を図るとともに、学習内容を精選し、多様な進路選択に対応できる学力の向上を図る。</p> <p>②言語活動の充実を図り、生徒の学習意欲を引き出すとともに、達成感を持たせ、主体的に学ぶ姿勢や態度を養い、自信と自己肯定感を育む。</p>	<p>①基礎学力の定着と生徒の進路実現に結び付く教育課程の計画的な実施を図る。</p> <p>②わかる授業を実践し、生徒の学習意欲を引き出すとともに、主体的に学ぶ態度や自己肯定感を育む。</p>	<p>①令和4年度入学生から教育課程について検証し、生徒の進路実現に結び付く教育課程の編成に努める。</p> <p>②校内研究授業や授業研究会を継続して実施する。</p> <p>③ICT機器を活用し、教科・科目で共用できる授業スライドや動画などの教材研究、作成を図る。</p>	<p>①生徒の進路希望や実態を把握し、履修可能な選択科目等を設置することができたか。</p> <p>②外部機関と連携した授業が実施できたか。</p> <p>③組織的にICT機器を活用した教材研究を行い、教材の作成を図ることができたか。</p>	<p>①令和4年度入学生の普通科の理系の教育課程について生徒の進路希望の実態から見直しを行った。</p> <p>②9月から10月にかけて授業見学期間を設け、近隣中学校との相互の公開研究授業の取組みを始め、授業力向上と生徒理解に繋げることができた。また、11月の校内研究授業において、教育センターよりカリキュラムコンサルタントを招聘し、「指導と評価の一体化」について理解を深めた。</p> <p>③科目担当者間で共用できる教材を作成することができた。</p>	<p>①令和4年度の教育課程について、さらに生徒の進路実現に結び付く教育課程の編成に努める。</p> <p>②県立高校生学習コンソーシアム等による外部人材の活用を進めていく。</p> <p>③主体的・協働的な学びの授業展開になるような取組みや生徒自身が考え、表現する機会がある授業を目指し、1人1台端末やアプリの活用方法など、ICT機器を積極的に活用した授業改善を行う。</p>	<p>①資格の取得が下がっているが、資格取得が小田原東の魅力でもある。資格が多く取れるよう更なる上を目指してチャレンジさせてほしい。</p> <p>②中学校との授業交流は、よい取り組みである。互いに刺激を受けることで授業改善や中学及び高校の理解も深まることと思われる。ぜひ今後も続けてほしい。</p> <p>③1人1台端末の活用方法を学校全体として取り組むことで、個別のスキルアップを図ることを期待する。</p> <p>また、1人1台端末とデジタル教科書を今後どうリンクさせるかも必要である。</p>	<p>①教育課程について、生徒の進路希望の実態から見直しを行い、履修可能な選択科目を設置することができた。</p> <p>①学習指導要領に沿った授業を行うことで、結果として、資格取得においても対応できる力が身につくような教育課程の編成に努める。</p> <p>②近隣中学校との相互の公開研究授業の取組みを始め、授業力向上と生徒理解に繋げることができた。また、校内研究授業を通じて、「指導と評価の一体化」について理解を深めた。</p> <p>③1人1台端末の活用方法を学校全体として取り組み、ICT機器を積極的に活用した授業を進めていく。</p>	<p>①引き続き、生徒の進路希望やニーズの実態把握に努め、履修可能な選択科目の設置に向けて、見直しを行う。</p> <p>①生徒の学習意欲をさらに引き出し、積極的に資格取得を目指す体制を構築する。</p> <p>②近隣中学校との相互の公開研究授業の取組みを継続し、さらに発展させて、授業力向上や生徒理解に繋げていく。また、指導と評価の一体化の実践に努める。</p> <p>③学校全体として組織的な教材研究を行い、ICT機器を活用した授業を展開し、1人1台端末の活用を推進していく。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>①生徒の課題に応じた知識を身に付けさせ、個に応じた組織的な指導体制を充実させる。</p> <p>②ビジネスマナー教育を大きな柱とし、基本的な生活習慣を身に付けさせ、学校行事や部活動を通して、社会で活躍できる健全な人材を育成する。</p>	<p>①生徒支援を適切に行うために、SCやSSWと情報共有し相談体制を実施できる環境を作る。</p> <p>②学校行事や部活動を通して、自ら考え判断し、行動ができる能力を身に付けさせる。また、学校行事や部活動の活性化を図る。</p>	<p>①今年度は、教育相談の日程が増えるので、家庭と外部連携機関をつなぎ、支援体制を強化する。</p> <p>②生徒が主体的に活動できる支援を行うとともに、参加しやすい環境の構築を目指す。</p>	<p>①支援を要する生徒のケース会議を開催し、全職員と情報共有をして支援を行うことができたか。</p> <p>②学校行事後のアンケート結果から、生徒の充実感・達成感を読み取ることができたか。また、部活動加入率を保持・向上できたか。</p>	<p>①今年度、SCとSSWの相談日程が増え、相談件数が増えている。中学校との連携で、情報交換にSSWが入り情報が共有されている。</p> <p>②年度当初から生徒会本部役員と協議を重ね、各種行事を開催し、災害募金活動も実施した。部活動では、部員登録数(延人数)の割合が7～8割である。熱中症対策として、夏季休業中の文化部の活動場所を確保した。</p>	<p>①支援を要する生徒を外部機関とつなぐことができているが、手帳の取得まで家族の理解を得ることができていない。今後も支援を継続していく。</p> <p>②学校行事のアンケート結果は概ね良好であったが、体育大会については、天候不順の際の日程に改善の余地がある。部活動では、生徒が継続した活動ができるよう引き続き支援をしていく。</p>	<p>①様々な課題を抱える生徒に対して、組織的に取り組み、支援体制ができていることは評価できる。今後もSC,SSWとの情報共有を図り、継続して支援してほしい。</p> <p>②小田原東としての魅力のあるユニークな部活動がいくつかあるが、それぞれの部活動が「小田原らしさ」をもっとだしてほしい。また、部活動活性化のためにも、中学との部活動交流の場を、来年度は作ってほしい。</p>	<p>①かながわ子どもサポートドックの評価結果を、SC・SSWと学年会(スクリーニング会議)で情報共有し、子に応じた対応を検討する必要がある。</p> <p>②学校行事や部活動等、生徒の主体的な活動を支援することができた。学校行事を含め、本校らしい活動とは何かを検討していく必要がある。</p>	<p>①スクリーニング会議の時間を確保し、評価の結果を共有する時間を確保する。</p> <p>②生徒の主体的な活動を支援しつつ、他グループと協働し、本校らしい活動を模索する。</p>
3 進路指導・支援	<p>①確かな勤労観や職業観を身に付けさせるため、成長段階に応じた継続性のあるキャリア教育を推進する。</p> <p>②生徒の希望する進路を実現するため、教科指導と連携した進路指導の充実を</p>	<p>①外部講師等を招いてのガイダンスや講演会を計画的に行い、将来像につながるよう進路意識の向上を図る。</p> <p>②進路行事の充実を図るとともに、各教科との連携を深め、教科指導と進路指導の関連を図</p>	<p>①外部講師や企業の選定を考慮し、生徒に効果的なものにする。また、将来像につながる内容も要請する。</p> <p>②進路に関わる部分に関し、教科と連携し、多面的な指導を心</p>	<p>①進路行事のアンケート結果から、生徒の充実感や意識の変化を量ることができたか。</p> <p>②生徒の進路選択や志望理由の作成において、効果をあげるこ</p>	<p>①進路ガイドスにおいて、生徒の希望を踏まえた学校や企業を選定し、進学・就職後も含めた内容の講義を実施した。</p> <p>②進路選択や志望理由の作成に関する部分について、教材の一部として取り上げ、指導に繋げた。</p>	<p>①生徒の意識の高揚に一定の効果があり、三者面談において具体的な内容に繋げることができた。更に早期の段階で意識できるよう今後も検討する。</p> <p>②書類作成では効果があるが、授業の中での扱い方は今後も検討を続けていく。</p>	<p>①生徒の進路実現のために、進路に関しての様々な取り組みは評価できる。</p> <p>②就職に関しては、求人票のスマートフォンでの見方や進路の手引きを活用した指導等を丁寧に行うことが、結果につながっている。今後も継続してほしい。</p>	<p>①生徒の希望を踏まえた進路指導により、生徒の意識の高揚を図ることができたが、更に時期を早めていく必要がある。</p> <p>②求人票のWeb化や進路の手引きの活用により、丁寧に指導することができた。今後も丁寧な指導を心掛けていく。</p>	<p>①目標を段階的に定め、その時期と内容を常に生徒に確認することで、進路意識の高揚に繋げていく。また、最後まで進路実現に向けて努力を続ける。</p> <p>②求人票だけでなく、他の進路情報の提供についても、ICT化を検討していく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①地域との相互交流を進め、地域に根ざした学校づくりを推進する。</p> <p>②様々な機会を活用し、広報活動の充実を図り、地域や近隣小中学校への情報発信に努める。</p>	<p>①コロナの影響を考慮しながら、地元自治会や小田原市との連携を積極的に進めていく。</p> <p>②外部との連携事業に積極的に参加し、令和5年度は、PR活動などさまざまな場面で本校のPRを行っていく。中学校にも訪問し、情報発信していく。</p>	<p>①地元自治会との交流や清掃ボランティアなどに積極的に参加して、地域との交流を行っていく。</p> <p>②県西地区の説明会や中学校への出張授業などにも積極的に参加し、本校のPRを行う。また、SNS等も利用していく。</p>	<p>①地元自治会や清掃ボランティアに参加した生徒にアンケート等を実施し、満足度90%以上であったか。</p> <p>②出張授業や説明会のアンケートを中学生に実施し、満足度90%以上であったか。</p>	<p>①地元自治会との交流では、海岸清掃などに参加し地域への関心を高められた。また小田原支援学校の交流では、空手同好会の生徒が主体となり互いに学び合う姿勢が見られた。</p> <p>②学校説明会後のアンケートでは、積極的なPR活動を実施したことで、満足度90%以上の評価を得ることができ、本校への興味関心を高めることができたと感じている。しかし、出張授業の実現は出来ず、専門学科への理解を深めることが出来なかった。</p>	<p>①清掃ボランティアなど地域に根差した活動を次年度も積極的に実施していきたい。小田原支援学校との交流は継続的な実現に向けて計画的に進めていきたい。</p> <p>②中学校に対して、年度初めに出張授業の依頼を行うなど計画的なPR活動を実施し、本校の強みをさらに発信していきたい。特に総合ビジネス科の理解を深めていけるよう、次年度の課題として取り組みたい。</p>	<p>①コロナの影響や数年間のブランクを乗り越えて、清掃活動や支援学校との交流を積極的に実施できたことは評価できる。今後も多くの機会を提供し、ボランティア意識の向上を図ってほしい。</p> <p>②地区内の中学校の生徒数減も考慮し、小田原東の魅力をどう発信していくかなど、積極的に広報活動を行う必要がある。</p>	<p>①感染症対策を講じながら地元自治会をはじめ、小田原支援学校との交流など地域に根ざした活動を図ることができたのは大きな成果であった。また、海岸清掃など地域に密着した活動の幅を広げることができた。</p> <p>②PR活動においては、90%以上の満足度を得られるなど一定数の成果を得ることができた。しかし、本校に関心を持っていない中学生や保護者に対するアピールが不十分であった。次年度は、普通科と総合ビジネス科の併置校であることのメリットを伝えることが課題である。</p>	<p>①地域と連携した新たなボランティアへの取り組みなど、生徒が積極的にボランティアに参加できる機会を多く設け、生徒のボランティア意識の向上を図る。</p> <p>②学校説明会では、卒業後の進路をより丁寧に説明していき、本校での学校生活がより具体的に想像できるようにPR活動を実施していく。また、情報発信を定期的に発信していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①学校周辺の環境に配慮した災害への安全対策を一層強化させる体制整備を推進する。</p> <p>②事故不祥事を起こさない、風通しの良い職場環境を整備するとともに、働き方改革を進め、職員・生徒が夢を持ち、夢の実現のため生き生きと活動できる学校づくりを推進する。</p>	<p>①計画的に防災に関する訓練を実施する。感染症の状況を考慮しつつ、自治会や就労支援センターと協力体制を構築する。</p> <p>②改めて事故不祥事防止に対して、個々の職員が今まで以上に意識を持てるような体制づくりを行う。</p>	<p>①自治会や就労支援センターの方に参加いただく防災に関する訓練の実施。</p> <p>②事故不祥事に関して職員の意識を高めるために、定期的に研修を実施。職員の小さな変化や異常に気付けるように、常に業務では「ハウ・レン・ソウ」を行えるようにする。</p>	<p>①防災に関する訓練実施後、自治会や就労支援センターの方から意見を頂戴し、改善に役立てる。</p> <p>②年間を通して事故不祥事が発生していないか。また、各種業務に対して、事故不祥事を未然に防ぐための方策も取っているか。</p>	<p>①6月に火災想定避難訓練(生徒対象)を実施。11月に津波想定避難訓練を実施。その際、自治会及び就労支援センターと合同で行った。</p> <p>②職員会議の冒頭等の時間を用いて、定期的に事故防止会議を実施し、職員への事故防止啓発を行った。結果、年間を通して不祥事等を防ぐことができた。入選では採点等の研修と併せて事故防止のための研修も実施した。</p>	<p>①今年度の防災に関する訓練は、生徒はHR教室から避難行動を取っているの難訓練を実施。その際、授業場所(移動教室等)から避難行動を取る形態での実施も検討したい。</p> <p>②本校では定期的に事故防止会議を行って意識付けを行っているが、マンネリ化を防ぐためにも視点を変えた研修等を実施する必要がある。</p>	<p>①生徒の防災意識を高めるためにも、様々な状況を設定して実施することも必要である。自治会や中学校との共同訓練等も実施に向け検討してほしい。</p> <p>②不祥事防止については、粘り強く、定期的に取り組むことによって、職員の意識にもつながる。常に自分自身のことを防ぐためにも視点を変えた研修等を実施してほしい。</p>	<p>①地元自治会及び就労支援センターとの合同防災訓練が実施できた。しかし、地元自治会の参加者が少数であるため、本校が避難場所になっていることを知ってもらう必要がある。また、訓練は動線がある程度決められるが、有事の際の避難動線について、避難対象者が考えられる仕組みづくりが必要である。</p> <p>②不祥事および事故は今年度も発生していない。事故防止会議等を通じて、職員への意識付けは功を奏している。次年度も今年度に引き続き、不祥事及び事故防止に努める。</p>	<p>①地元自治会の参加者が多くなるよう、防災訓練実施の告知を早い時期から行う。</p> <p>①年間行事予定に設定されている時期にとらわれない実施も視野に入れて検討する。</p> <p>②定期的な事故防止会議はもちろん、外部講師の定期的な研修等を通じ、不祥事・事故防止の意識を高める活動を実施する。</p>